池田高３年生が郷土資料館で町の歴史を学ぶ

池田高校（佐藤秀樹校長、生徒63人）で「時事問題研究」を選択する３年生４人が６月３日、郷土資料館を見学しました。

この授業は郷土資料館の見学を通して、町の歴史を知り、地域の課題について考えることで、地域に関わる意識を育てることを目的としています。

この日、浦幌町立博物館の持田誠学芸員が講師を務め、生徒たちは「池田町発祥の地」の記念碑や利別駅などを巡った後、郷土資料館を見学。持田学芸員や郷土資料館の職員の説明を受けながら、展示パネルや資料に目を通し、町の成り立ちや昔の様子、町の移り変わりについて学びました。見学を終えた所勇吹さんは「郷土資料館には想像以上に昔の資料がたくさん展示されていて驚いた」と話していました。